

会 議 録（確定稿）

会議名称	第三次西東京地域福祉活動計画（第8回）策定委員会
日 時	平成25年8月30日（火）午後7時～9時25分
会 場	田無総合福祉センター2階視聴覚室
出席者	（策定委員） 熊田委員・尾崎委員・内田委員・小松委員・土方委員・鶴澤委員 白倉委員・田谷委員・三輪委員・伊佐委員・畠山委員・陸名委員 （事務局） 栗山・齊藤・丸木・鈴木・鶴野・妻屋・長谷川・関根・利光・八阪・廣瀬 （オブザーバー） 生活福祉課 小林係長 （コンサルタント） 田口・渡邊
欠席者	高橋委員・岩崎委員・高梨委員・成田委員・田中委員
会議次第	<次第> 1. 委員長挨拶 2. 資料確認 <議題> 1. 前回会議録確認 ①議事録の扱いについて 2. 既存の調査からの報告 ①「西東京市地域福祉に関するアンケート調査結果報告書」より ②「西東京市 高齢者生活状況調査 報告書」より ③民生委員による報告 3. 基本目標の決定（グループでの話し合い） 4. その他 ・第9回以降のグループ分けについて ・懇親会について（お知らせ） ・その他
配付資料	<事前配付資料> 1. 第7回策定委員会会議録（未定稿） 2. 計画検討の流れ 3. 西東京市高齢者生活状況調査報告書 結果概要 4. 8/27 グループワーク進行資料 5. 前回グループワークのまとめ資料 6. 住民懇談会の実施について ご案内：8/30 懇親会のお知らせ

	<当日配付資料> 1. 第3期計画に向けた調査結果概要 2. 第8回策定委員会グループワークメンバー表
結 論	◆決定事項 前回会議録は、確定稿とする。 1. グループワークでの討議の結果、【基本目標】は5つに決定する。 2. 【住民懇談会】の実施の検討については、第9回以降で議論する。 3. 【第9回以降のグループ分けについて】は、事務局に一任する。
	<次第> 1. 委員長挨拶 委員長：8月の暑い中、お集まりいただきありがとうございます。本日は、基本目標の策定という大きな山を迎えるので、お力添えいただきたい。 2. 資料確認 事務局より、当日の資料確認が行われた。 <議題> 1. 前回会議録確認 委員長：何かお気づきの点があればお願いしたい。 (委員からの意見無し。) ①議事録の扱いについて 事務局：議事録の扱いについて、今まで、未定稿段階においても発言者名を伏せていた。どのような発言をしたか確認したい場合をふまえ、今後未定稿の段階では名前を載せたい。確定稿の時点では名前を削除する形を取る。委員の皆様はどのようにお考えでしょうか。 委員長：(本委員会では)初めての取り組みとなる。よりわかりやすくするために、未定稿の段階で名前を載せることには問題がないと思われるので、この案でよろしいか。 (委員からの異議無し。) 委員長：内容についても、承認いただいたということで、この案で確定とし、「未定稿」の部分を取り外す。確定稿については前回と同様に、次回の委員会で配布する。 2. 既存の調査からの報告 ①「西東京市地域福祉に関するアンケート調査結果報告書」より 事務局より、福祉にかかわる最新の情報が地域福祉計画にあることを案内した上で小林係長を紹介し、係長より当日資料1【第3期計画に向けた調査結

果概要】を用いて結果の説明を行った。

②「西東京市 高齢者生活状況調査 報告書」より

事務局より、事前配布資料 3【西東京市高齢者生活状況調査報告書 結果概要】を用いて内容について解説を行った。なお、「一人で暮らしている人が約 24%」という記載については、これを 21.4%に訂正した。

③民生委員による報告

委員：調査について感じたことは次の通り。自分が担当している調査は、今回で 4 回目となる。西東京市に合併される前は、田無市では毎年調査が実施されていた。西東京市として編成されてからは、調査が 3 年に一度となっており、民生委員としては負担が少なくなった。担当地区には 75 歳以上の方が約 200 名居住している。今回の調査対象者数は約 170 名である。郵送での返信も可能という方法をとった。民生委員は、調査項目について内容は確認するが、徐々に対象者とのかかわりが減っているような感触がある。会話が少なくなっているように思える。長く話したい人もいる中で、調査が事務的な雰囲気となっていることは否めない。自分は調査の中で 65 歳以上 75 歳未満の方とは直接かかわってはいないが、65 歳以上 75 歳未満の方の調査結果を受け取り、確認したところ、身寄りのない方が活動地域の中に多くいらっしゃる。また、緊急連絡先がない人がいることが分かった。最近、民生委員の中で活動が「大変だ」と言う人がいる。調査に対する考え方として、無関心、かかわりがなくなる、つながりが薄くなることを民生委員自らが実践してしまうのは良くないと考えている。「65 歳以上の高齢者」は 1 つのキーワードとしてとらえることができ、調査対象の候補にも考えたい。民生委員法第 14 条には、職務に関する記載があり、「生活状況を必要に応じて適切に把握すること」、とある。市より、民生委員が社会福祉協力員として委嘱を受けており、「地域の社会福祉に係る調査に協力する」旨が記載されている。時代が変わる中で、民生委員の仕事として、調査等に関することもあるという認識は持つべきだと思う。

委員：今回の 75 歳以上高齢者生活状況調査で、以前と異なっていた点は、国勢調査の経験に基づくのだが、国勢調査を行った平成 17 年には 3.4 回訪問して 1 件の回収を得ていたことに對し、平成 23 年においては、6.8 回の訪問につき 1 件回収を得る計算となっている。このような経験から、今回の調査については、ある程度覚悟していたが、200 件の訪問調査では、1.8 回で回収することができた。回収率は 98%であった。このほかに嬉しかったのは、これまでの調査で訪問をすると、開けてくれない人が 7~8 人いたことに對し、今回の調査では、事前に準備をしていたので、3 件は相変わらず開けていただけなかったが、4 件はドアを開けてくれたことだ。この 4 件のうち、2 件ではセルフネグレクトの現状が明らかとなり、アパートがゴミ屋敷という状態であった。そこで、民生委員で片付けをした。これらは、調査の中で出てくる現実であり、書面からはなかなか読み取ることができない。このほかに、活動を通して「期待」していることは以下の通りである。調査を通して気になっている点でもあるが、住民の方が緊急事態のときには、誰に連絡するのかという記入事項について、3 件のケースにおいてどうして

も回答してくれない。要するに、そういった住民は親族が回答しないことを後押ししており、自分のことしか考えていないのである。だが、事故があった場合には「民生委員が訪問していない」ということになってしまう。また、設問に対する回答で抱く疑問として、支え合いのネットワークについての認知度を問う箇所、支え合いのネットワークを利用したいという人は 370 人もいる。中身が分かれば使いたいという人と合わせると 1000 人程度となる。では、誰がその活動を担当するのかと言え、やはり民生委員に限られてしまう。システムが確立されていないのに紹介すると問題が起こるのではないかと疑問であり、心配だ。訪問することで、一方では期待感をもつ回答者もいる。普段、話ができないことも、話すことができる。これまでに、のべ 360 回の訪問を経ているが、自分にとっても貴重な時間である。この人はどのような生活をしているのだろうか、といつも見ながらそれに関連した質問をする。家において誇りに思うこと、自慢したいものは、必ず玄関に現れる。高齢者の場合は、ほとんどの方が手作りのものを飾る。手作りの作品をほめたとき、喜んでくれた。施設への展示についてアドバイスをすることを通して外部に広め本人も活発になるなど、物語が生まれることもあり、それがやりがいにつながっている。

事務局：今回は特に質問を受けつける時間等は設けていないが、概要についての質問や、今後話を聞きたいことがあれば、次回までをお願いしたいと考えている。

委員長：結論から言うと、住民は皆つながりたいと考えている。ところが、つながる手だてがない。手だてがないということが言いのがれになっている場合もある。いずれにしても、つながれない人がいる、という事実が、民生委員の方の話の中で明らかとなった。「玄関に自慢したいものを置く」ということには、シンボリックな意味、つながりたいという思いが表れているとも言える。つながらない人は、つながらなくてよいのではなく、どのようにすればつながることができるのかを、積極的に今後私たちは考えるべきだ。また、民生委員の業務がしんどい状況になっていることも話の中で出された。民生委員がいるのでよい、というわけではなく、私たちはどのように地域を考えるべきかを考える必要があるのではないのか。発表された各委員の考えもこれから議論する基本目標に活かしていきたい。

3. 基本目標の決定（グループでの話し合い）

事務局から、作業の手順説明と、基本目標の決定方法について案内した。

《各班の発表》

【A 班】

委員：前回のグループワークに引き続き「お互いさま」を掘り下げ、さまざまな話題と関連させた。人のつながりにくさ、つながりの中でのほどよい距離感（押しつけがましくない形）が必要であり、また、そのために情報共有も必要であるのではないかという意見が出た。基本目標案「住み慣れた地域で住み続けるために」について、アンケートの中でも出たように、お子さんから高齢者まで西東京市に住みたいと思う人が大きいこと。聞いた話によれば、西東京市は福祉が充実しているという評判があ

ることから、そのような優しいまちに一日でも長く住み続けるために、さまざまな方策を考える必要がある。もう一方の基本目標案の「必要なときに助け合えるために」では、まず、おせっかいという言葉には違和感があるという議論を行った。サポートとは、「助けが要らなくなったときに、助けている側がさっと手を引くこと」である。症状が重いときにも、人間は力を発揮し回復することができる。このように、回復できる能力を支え続けることが本当の意味でのサポートなのではないか。

【B班】

委員長：「みんなが笑顔で暮らせるまち」という文言でまとめた基本目標の背景には、互いを理解し支えあう、つながりがある。つながらなくてもよいと考えている人に対して、その人の受容や個人を認めることが大切である。また相手への気配り、相手を思う優しさを持ち、「助けて」を言いやすいことも含めて目標にしている。違いを認めることも含意した「みんな笑顔で」なのである。困っていること、寂しいことを乗り越えた先には笑顔があるという意味で、このフレーズとなった。また、「一歩前を後押しする情報発信」という基本目標については、人が自分を変えたいときに、一歩前へ出なくてはならない。一歩前に出るとき、そこには地域の中に情報が必要であると考え。何も知らずに一歩前に出る勇氣はなかなかわからない。興味があるとき、助けてほしいとき、あるいは何かを求めるときに、情報があるようなまちを目指したい。

【C班】

委員長：前回のキーワードを抽出すると「家族」、「集団」、「地域」という大枠と「個性」に分かれている。大枠の「地域」については、家族のようなつながりがあるまち、とあるが、適度な距離感を持っている家族のような市民、という意味も込めて「家族のような」としている。また、「個性」については基本目標を「一人ひとりがイキイキできるまち～輝こう！スキップしよう！～」という文言でまとめている。

《全体での協議》

事務局：まずは、出された基本目標は6つのままとするか、それとも共通の内容があれば統合するかを議論したい。また、統合できそうなものがあればご指摘いただきたい。

委員：「住み慣れた地域で住み続けるために」という基本目標案については、基本理念に近いような気がする。この目標に続いて、何が具体的に必要か、ぶら下がっていくはずである。

委員長：確かに、この基本目標の案は、基本理念と重なる部分がある。また、それ以外の目標案については、共通していることとして「つながりたい」という方向性が挙げられるが、「つながること」の力点は各班で異なるように思える。「ひとりひとりがイキイキできるまち」には「つながること」とは別の方向性があるとして、「みんな笑顔で暮らせるまち」、「必要な時に助け合えるために」、「家族のようなつながりのあるまち」は「つながる」に該当する。「必要なときに」には困ったときに手をさしのべるという意味がある。「みんな笑顔で」にはもっと楽しむという要素が含まれる。「家族のようなつながり」もまた別のとらえ方である。これらは別立てにすることができる。また、「つながり」と同時に「個性」の軸がある。これについては、一人ひとりがどのように生きるか、とい

	うことも重要だという思いが込められている。さらに、情報発信もまた大切だという意見もある。したがって、この5つの柱で考えたい。 事務局：4つは「つながり」でまとめるということか。 委員長：5つ別々で残すということ。なぜかというと、「必要な時に助け合えるために」とあるが、これらについてはどちらかというとニーズの意味合いが強い。つまり、必要なときに助け合いをすることである。また、前回の協議では、おもしろいことや笑いが必要だという意見が出された。そこで、笑顔を出せるために、あるいは、家族のようなつながりをするために、またあるいは、つながりの部分だけでなく、一人ひとりがどのようにイキイキできるかを考える必要があるのではないか。情報発信もゆくゆくは必要である。ただし、「住みなれた地域で住み続けるために」は、やはり基本理念に近いので、大きなテーマとして、基本目標からははずしたいと考える。 事務局：発言の補足だが「みんな笑顔で暮らせるまち」という基本目標案については、「つながる」というくくりではなく、「お互いがお互いを理解する」という中身でくくった。「つながり」というくくりでは別の項目で柱を作っている。 委員長：いわゆる福祉教育的な側面からの考えなのか。 事務局：思いやる、助け合う、支え合うなどの意味に近い。 委員：「みんな笑顔で暮らせるまち」というフレーズには、お互いがお互いを理解し合うという思いがある。個を尊重する姿勢に基づいた目標である。 委員長：基本目標の柱につなげるストーリーがほしい。ひとつひとつの目標を大事にしたい。先ほどの基本目標については個を尊重するという系統に近いので、「ひとりひとりがイキイキできるまち」の意味合いで整理して良いか。 事務局：この5つの柱とするのではどうか。 委員：「一歩前を後押しする情報発信」については意味が分かりにくい。『一歩前へ』を後押しできる情報発信」という表現に変えるのではどうか。 事務局：B班はこれについてどのように考えるか。 委員：班の中では議論をしたので分かっているのだが、読む人がぱっと見て分かる表現が望ましい。その表現で分かるのであれば、異議はない。 委員：「情報発信」だと、全体を対象としてしまうので、必要とする人間に提供するという意味で「情報発信」を「情報提供」と言い換えるのではどうか。 委員：一歩前に出たい人がいる場合に、個人個人に声をかけるという形ではなく、不特定多数に対して情報発信が行われており、必要なときに情報が
--	---

	豊富にあるという点が重要なので「情報発信」としている。 委員：リーダー的な人が居やすいように、という意味で「一歩前へ」を用いているのか。 委員：困りごとのある人が、現状を変えたいな、そのためにどうしようかな、と考え、一歩前に出るとき、情報のネットワークやシステムがそこにあるという意味を「情報発信」には込めている。そこに行けば情報があるという「場所」的な意味でもない。 委員：これはある種の希望感なのではないか。この基本目標には、期待感、すなわち、このまちならば、少し出て行くと情報があるという意味での希望感に思えるが、この解釈についてはどうか。 事務局：この基本目標にぶら下がりそうな取り組みとして、例えばどのようなことが考えられるか。 委員：人も、場も拠点もあり、いつも情報発信をしている、ということが例として考えられる。障がいがあっても、子どもであっても、高齢であってもわざわざ地域包括支援センターに行かなくても情報を得られるという考え方である。 委員：この目標案に違和感がある理由として、主語がないことが挙げられる。B班の発表者の話を聞いていると、「必要な情報が発信されているまち」ということを言いたいのではないか。他の基本目標案は「まち」で結ばれており、それぞれまちづくりのニュアンスがある。 委員：B班の基本目標からは離れるが、基本目標を5つ残すとしたら、これらが並ぶ状態となると考えられる。それぞれの目標を叶えるための細かいアクションが各目標にぶら下がる。そのように考えると、下に引っ張ることのできる目標と、できない目標があるような気がする。B班については「情報発信されている」ということでわかりやすい。B班「みんな笑顔で暮らせるまち」も言葉としてはわかりにくかったが、聞いてみると活動がぶら下げやすい。A班についても同様に可能と言える。ところが、C班は基本理念に近い部分がある。「家族のようなつながりのあるまち」については残すことができたとしても、「ひとりひとりがイキイキできるまち」は、活動としてぶら下がってくるものが思い浮かばない。 委員長：そのようなことはない。今後、検討をしていく中で見直せばよい。すべてにおいてどうにか作れそうな気はする。みんなで議論をすればよいことであり、今後の作業の過程で、5つの柱を再編集することもできる。まずは5つの基本目標案をすべて残すべきだと考える。具体的な取り組みを考える中でまた議論したい。 事務局：C班の基本目標案について、どのようなところがイキイキしているというのか、発表の中で触れられたか確認をしたい。 委員：「一人ひとりが主役」であるという前回の議論から出発し、個性が取り上げられた。個人が活かされている状態であることを考えているとき
--	---

に、「イキイキ」という言葉が出た。誰かが黙っていなくてはならないということではなく、一人ひとりが幸せであり、「イキイキ」と輝いている状態であるという意味合いでこの基本目標を考えた。

4. その他

①第9回以降のグループ分けについて

委員長：次第に記載されている「住民懇談会の開催について」は次回以降検討することとして、本日は第9回以降のグループ分けについて確認したい。

事務局：先ほどの議論で決定した5つの目標については、次回以降グループ分けをした上で議論を進めたい。来週までに希望があれば承る。その場合は明日、明後日中にFAXで希望を募りたい。

委員：希望については募る必要はない。自分としてはどのグループに割り振られても良い。

事務局：ほかの委員からは何か意見はございますか。

(委員の意見に対して特に異論は出なかった)

事務局：それでは、第9回からのグループ分けについては、事務局で割り振りをさせていただきたい。次回の議題については、具体的にどのようなことができるかを話し合う内容を考えている。基本的には最後まで同じグループで議論をしていただくことになる。

②懇親会について

事務局より懇親会に関する案内があった。

委員長：基本目標が決まり、次回からいよいよ本格的に動き出す形となるので、懇親会で柱について議論ができればと思う。

③その他

委員：本日、既存の調査の報告があったが、可能であれば9月の段階で障がい者や子育てに関する調査結果の報告をしていただき、それを基に施策に関する議論を行いたいので、ぜひお願いしたい。

委員長：その点については事務局で持ち帰り、検討をさせていただきたい。

以上